

がん性腹水・胸水の効果的な治療

- がん性腹水(胸水)が、大量にたまっていく場合、多くの医療機関では患者さんが苦しんでいても腹水を抜くと体が弱るということで腹水を抜かずアルブミン注投与と利尿剤で対応していることが多くみられます。当院では、そのような状態の患者さんでも苦痛を取り除き、がんの進行を弱めるための有効な治療を行っています。
- 1) 腹水濾過再静注～KM-CART法と呼ばれるものです。腹水を抜いてがん細胞を取り除き、栄養成分だけ点滴で患者さんの体に戻します。もちろん保険適応です。
 - 2) 利尿剤・特殊組成アミノ酸製剤・漢方薬なども投与致します。
 - 3) 可能であれば腹腔内への抗がん剤投与も行います。
 - 4) しかし、膵臓がんの場合はこれでも治すことが困難です。その時に有効な治療法が、デンプー腹腔-静脈シャント術です。膵臓がんの場合、腹水がたまり始めると余命は、3～6か月以内ですが、当院では、デンプーシャントを設置して3年間生存された症例があります。がん末期で、腹水や胸水がたまってケースでも保険診療の範囲内で以上のような有効な治療法がありますのでご相談ください。